

平成19年度 日本自転車振興会競輪補助事業完了のお知らせ

この度、日本自転車振興会から平成19年度競輪助成金の交付を受け、先の事業を完了致しました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、日本自転車振興会を始め、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

一、事業名	平成19年度障害者のスポーツの振興補助事業
一、総事業費	35,368,103円
一、補助金額	26,523,750円
一、実施場所	東京都中央区日本橋人形町2丁目 14番9号 三星ビル内 財団法人日本障害者スポーツ協会
一、完了年月日	平成19年10月15日

財団法人日本障害者スポーツ協会
会長 北郷 勲夫

概要

1.第7回全国障害者スポーツ大会

期日	平成 19 年 10 月 13 日～15 日
場所	秋田市、能代市、由利本庄市、三種市、五城目町内の各会場
参加人数	選手 約 3, 3 0 0 人 役員 約 2, 0 0 0 人 計 5, 3 0 0 人 ボランティア 延べ約 7, 0 0 0 人 一般観覧者 延べ約 3 万人
実施競技	正式競技 1 3 オープン競技 1 (精神障害者バレーボール)

2.第 7 回全国障害者スポーツ大会予選会(全国7地区)

①聴覚障害者バレーボール競技

全国を 7 地区、平成 19 年 5 月 6 日から 6 月 24 日までの間、予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	札幌市	札幌市
関東	東京都	神奈川県
北信越	富山県	新潟県
東海	愛知県	静岡県
近畿	兵庫県	大阪市
中国・四国	鳥取県	徳島県
九州	福岡県	沖縄県

②車椅子バスケットボール競技

全国を 7 地区に分け、平成 19 年 4 月 1 日から 6 月 10 日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	仙台市
関東 1	東京都

関東2	千葉市
北信越・東海	愛知県
近畿	神戸市
中国・四国	岡山県
九州	沖縄県

③グラウンドソフトボール競技

全国を7地区に分け、平成19年5月12日から6月17日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	福島県
関東	山梨県
北信越・東海	三重県
近畿	大阪市
中国・四国	広島市
九州	福岡県・福岡市
大会開催地元	秋田県

④知的障害者バスケットボール競技

全国を7地区に分け、平成19年4月8日から6月17日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	札幌市	札幌市
関東	東京都	東京都
北信越・東海	長野県	岐阜県
近畿	大阪市	大阪市
中国・四国	岡山県	島根県
九州	福岡県・大分県	大分県
大会開催地元	秋田県	秋田県

⑤知的障害者ソフトボール競技

全国を7地区に分け、平成19年5月20日から6月10日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	札幌市
関東	東京都
北信越・東海	静岡県
近畿	大阪府
中国・四国	島根県
九州	長崎県・大分県
大会開催地元	秋田県

⑥知的障害者バレーボール競技

全国を7地区に分け、平成19年5月13日から6月10日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	男子	女子
北海道・東北	宮城県	宮城県
関東	東京都	東京都
北信越・東海	愛知県	岐阜県
近畿	兵庫県	兵庫県
中国・四国	山口県	高知県
九州	北九州市・大分県	福岡県・大分県
大会開催地元	秋田県	秋田県

⑦知的障害者サッカー競技

全国を7地区に分け、平成19年4月15日から6月17日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。

地区	出場チーム
北海道・東北	札幌市
関東	東京都
北信越・東海	静岡県
近畿	大阪府
中国・四国	島根県
九州	長崎県・大分県

大会開催地元	秋田県
⑧フットベースボール競技	
全国を7地区に分け、平成19年5月13日から6月10日までの間予選を行い、次のとおり出場チームを決定した。	
地区	出場チーム
北海道・東北	岩手県
関東	東京都
北信越・東海	静岡県
近畿	神戸市
中国・四国	高知県
九州	熊本県・大分県
大会開催地元	秋田県

3.第36回日本車椅子バスケットボール選手権大会

期間	平成19年5月2日～4日
場所	東京体育館
参加チーム	20チーム 優勝:千葉ホークス(千葉県)
参加人数	選手300人 役員・ボランティア400人
観客数	4,800人

4.2007日本障害者自転車競技大会

■トラックレース	
期日	平成19年4月14日～15日
場所	一宮競輪場(愛知県一宮市)
参加人数	選手23人 役員24人
■ロードレース	
期日	平成19年4月14日～15日
場所	万場調整池(愛知県豊橋市)

参加人数	選手 30 人 役員 33 人
------	-----------------

5.国際盲人マラソン大会

期日	平成 19 年 4 月 15 日
場所	土浦市川口運動公園陸上競技場、霞ヶ浦湖畔
加人数	一般選手 13,711 人 視覚障害選手 158 人 ボランティア 3,000 人以上

成 果

第 7 回全国障害者スポーツ大会

「きっと出会える！夢と感動」をスローガンとして、秋田わか杉大会が、秋田市、能代市、由利本荘市、三種町、五城目町内の各会場にて開催された。

全ての人々が共に支えあい、スポーツの楽しさと感動を共有し、障害者スポーツの輪を全国に広げることを目指したこの大会では、選手・役員、ボランティア、観客など12万人が参加するなか熱戦と温かな交流が繰り広げられた。

閉会式では、選手と観客が一体となり、県民総参加のもと参加する全ての人々が感動を分かち合う大会となり、障害者スポーツを広く普及する国内最大の大会の役割を果たした。

第 7 回全国障害者スポーツ大会予選(全国7地区)

本大会の団体競技の予選会を全国7ブロックで、グランドソフトボール(視覚障害者)、バレーボール(聴覚障害者)、車椅子バスケットボール(肢体不自由者)、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボール(いずれも知的障害者)の各競技について開催した。この予選会で選ばれた各チームが本大会に出場している。

第 36 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

本大会は今年で36回の歴史をきざむ。新人選手の発掘、競技力の向上が少しずつではあるが毎年みられる。往年の名選手にも参加を求め、新人とベテランの交流から車椅子バスケットボールそのものの振興に効果を上げている。メディアにも取り上げられることが多く、障害者スポーツの全体的な振興に役立っている。

2007 日本障害者自転車競技大会

障害者スポーツの一つとしての自転車競技の発展、競技者の拡大を図るとともに、一般の自転車競技者との交流などにより、選手の発掘、技術の向上につなげることができた。さらに、ポスターや横断幕に補助事業であることを明記したので、競輪の収益が公共の福祉に活用されていることも広く知らせることができた。

国際盲人マラソン大会

視覚障害者のマラソンは伴走者がいれば比較的簡単にできるスポーツであるため愛好者は多い。本大会は関係ボランティア、伴走ボランティア等が多く関わり、視覚障害者のマラソンを、また視覚障害者そのものを広く宣伝することにつながり、選手層の拡大にも大いに貢献した。

今後期待される効果

第 7 回全国障害者スポーツ大会

初めてこのような大会に参加した選手も多いはずである。一人の選手が本大会に出場するまでの経験、また本大会に出場した経験がその選手のその後をどのように花開かせるか。一人の障害者がスポーツに親しむようになることがさらに、その周囲の人に良い影響を及ぼすであろう。

第 7 回全国障害者スポーツ大会予選

団体競技の予選会は本大会にとっては必須のことである。新人の発掘、競技力の向上、競技団体の組織力アップ等と障害者のスポーツや障害者そのものの宣伝に少しずつではあるが影響を及ぼしている。

第 36 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

新人の発掘と競技力アップだけでなく、審判の力量や大会運営力も向上している。新人とベテランの交流を通して、競技団体としての組織力のアップにつながり、日本の障害者スポーツ全体の牽引役として、他の競技団体に良い影響を及ぼしている。

2007 日本障害者自転車競技大会

日本学生自転車競技連盟との協力関係が大変密になり、大会実施に対する協力はもとより障害者についての理解も大いに深まった。

また、2007 年日本障害者自転車競技愛知大会を世界選手権の日本代表選考の参考資料にしたことなどにより新しい選手

の参加もあり、また好記録が出たことから、今後さらに自転車層の底辺の拡大が期待できる。

国際盲人マラソン大会

一般ランナーと視覚障害ランナーと一緒にレースをする、国内では貴重な国際大会の一つとして定着してきた。海外からの選手の参加が国内選手の意識を変え、また競技力の向上に大変良い刺激を与えている。また、多くのボランティア等の関わりを得ていることで、資格障害者そのもの、また視覚障害者のマラソン競技について広く宣伝をすることにつながった。

本事業により作成した印刷物

(1)日本車椅子バスケットボール選手権大会	ポスター	1,800部
	プログラム	2,300部
	チラシ	15,000部
	報告書	1,000部

各配布先は以下のとおり

・障害者スポーツ協会等関係者	699部
・チーム・地区連盟	121部
・大会関係者	150部
・連盟本部	30部

(2)日本障害者自転車競技大会	ポスター	100部
	プログラム	200部
	報告書	200部

報告書の配布先は以下のとおり

・各都道府県・指定都市障害福祉主管課	60部
・各県障害者スポーツ協会	40部
・選手	70部
・大会関係者	20部
・その他	10部